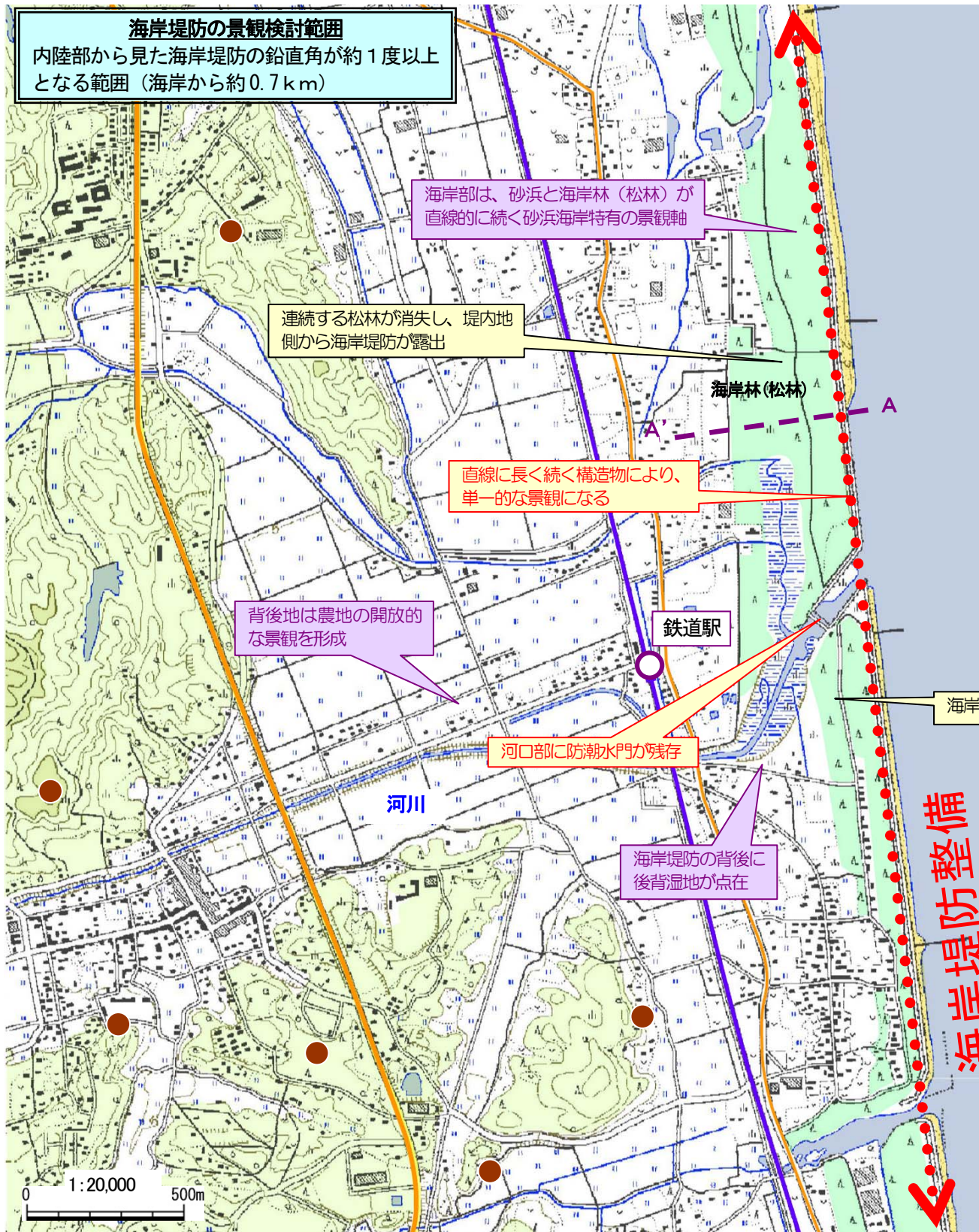


《地区の概要》

地区特性

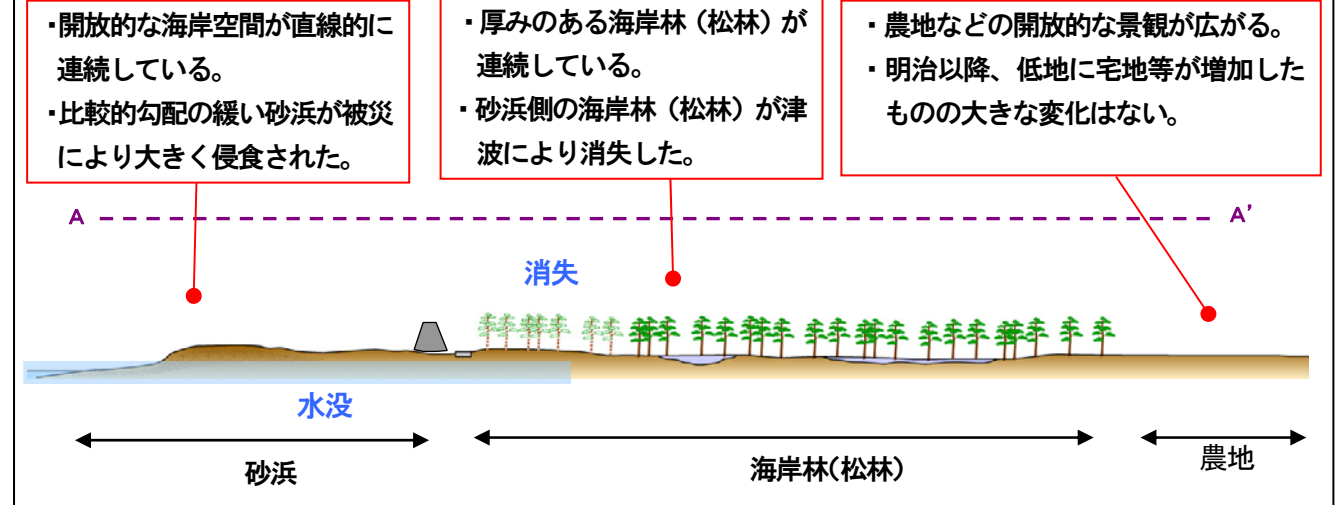


景観特性

- ・内陸の平野部では、起伏がなく広がりのある景観が形成される。海岸部は、砂浜と海岸林（松林）が直線的に続く砂浜海岸特有の景観軸、その背後は農地や河川の開放的な景観が形成されている。
- ・被災により大きく侵食され、海岸林（松林）がほぼ消失した。そのため、堤内地側から海岸堤防が露出している。

地形基盤と地域の成り立ち

地形断面図（A-A'）

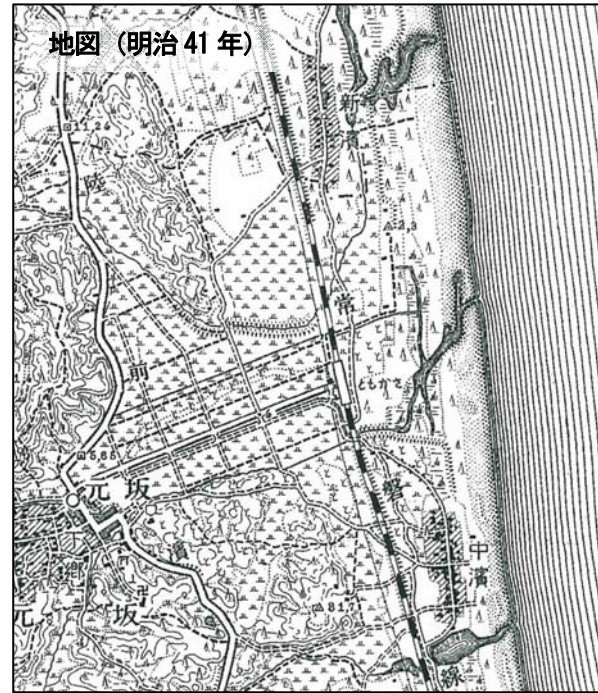


残存した防潮水門の状況



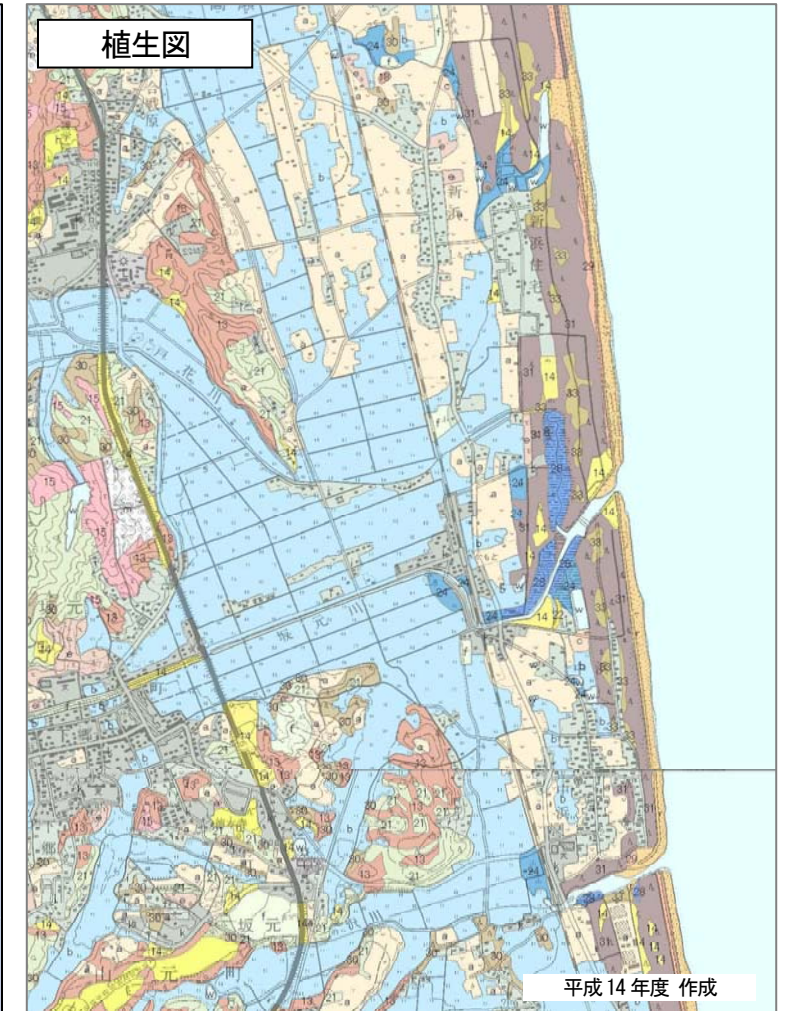
- 凡例
- 役所
 - 神社・仏閣
 - 鉄道駅舎
 - 主要道路
 - 地形による景観特性
 - 被災による景観変化
 - 施設の景観特性

《地区の概要》

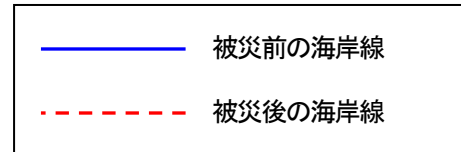


地形・生態系特性

- ・かつての海岸線と現在とを比較すると、海岸線は侵食傾向にある。被災後、内陸部に大きく侵食され、地形が変化した。
- ・長大な砂浜と海岸林（松林）が带状に続く自然性の高い海岸である。また、小河川の河口部や低湿地、潟湖など豊かな水辺環境が存在する。
- ・海浜は砂の移動、潮風等により「自然裸地」となり、陸地側に向かって海浜植生、海岸林（松林）が形成されている。
- ・一帯では、砂浜海岸特有の生態系が見られる。

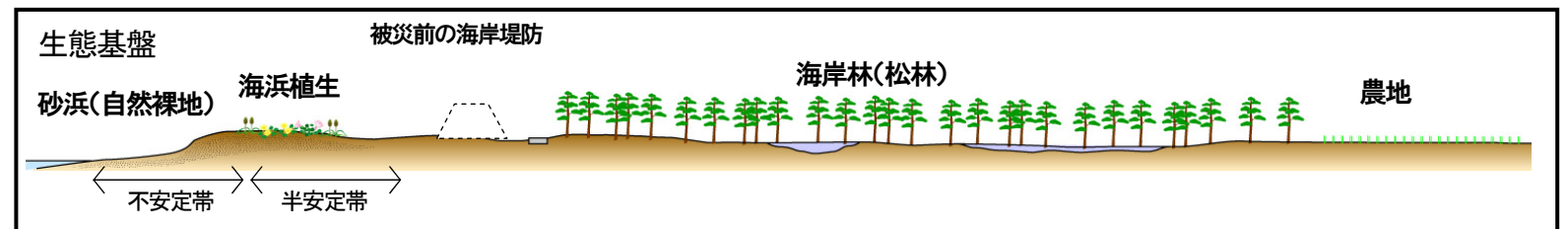


平成14年度作成

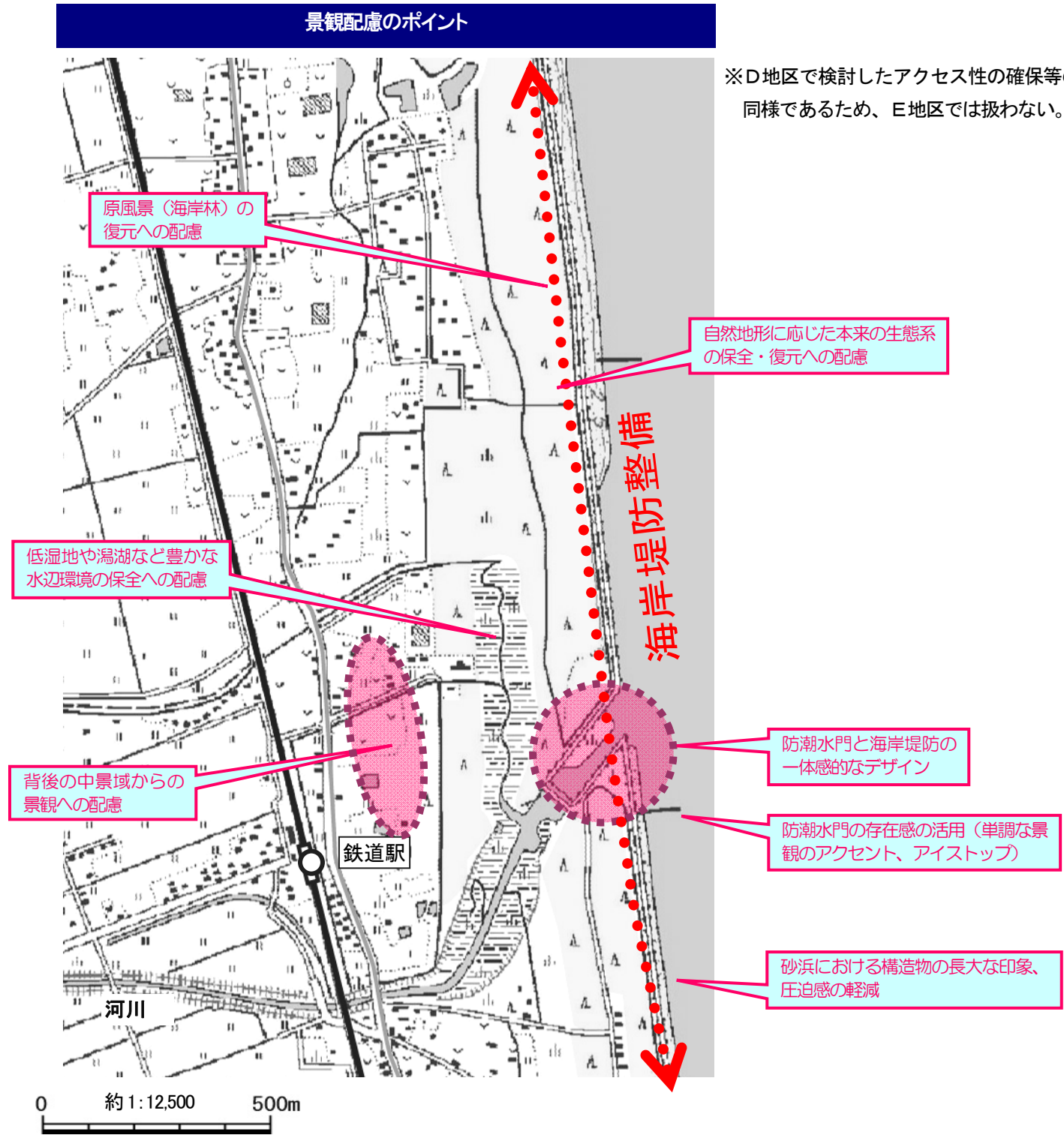


植生図 凡例（抜粋）

凡例色	植生図凡例番号	統一凡例番号	統一凡例名
黄緑色	14.250200	スキ群団(V)	
黄色	22.430400	アズマネザサ群落	
水色	24.470400	ヨシクラス	
茶色	31.540300	クロマツ植林	
緑色	33.540902	ニセアカシア群落	

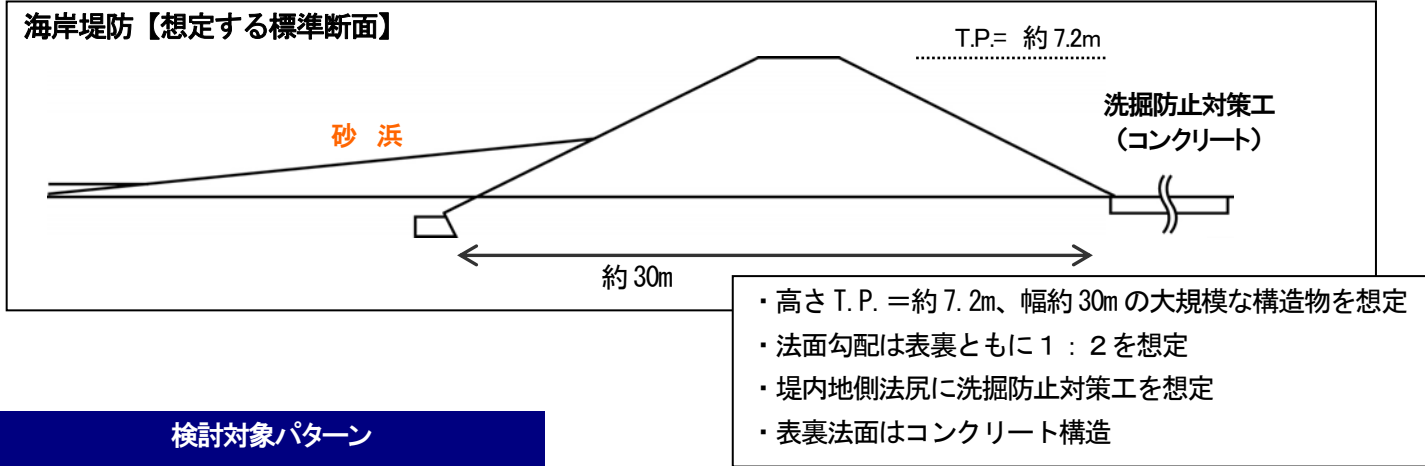


《景観配慮のポイント》



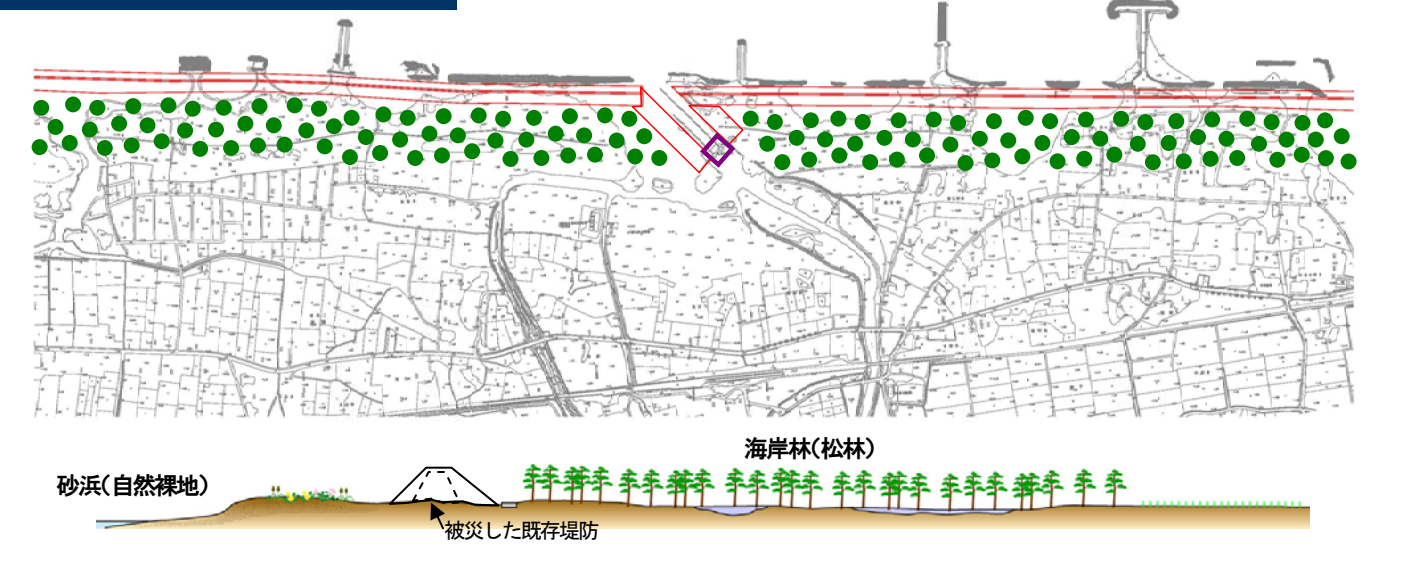
《検討条件と検討対象パターン》

検討条件（施設構造）

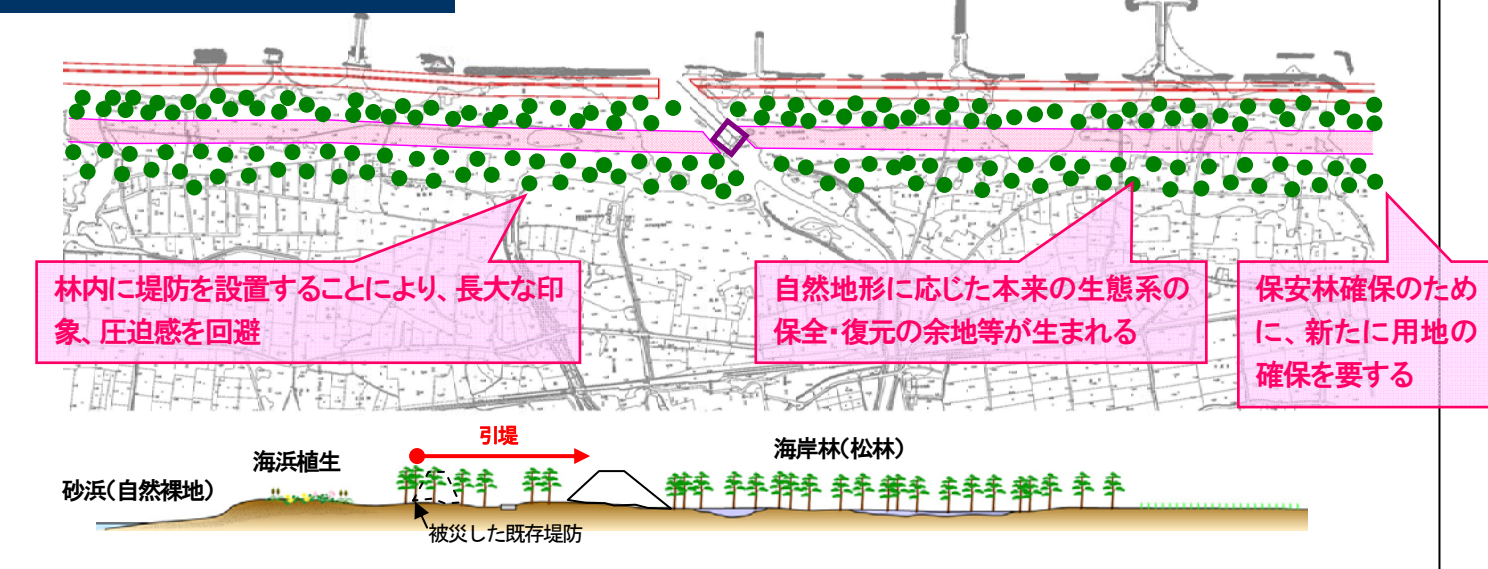


検討対象パターン

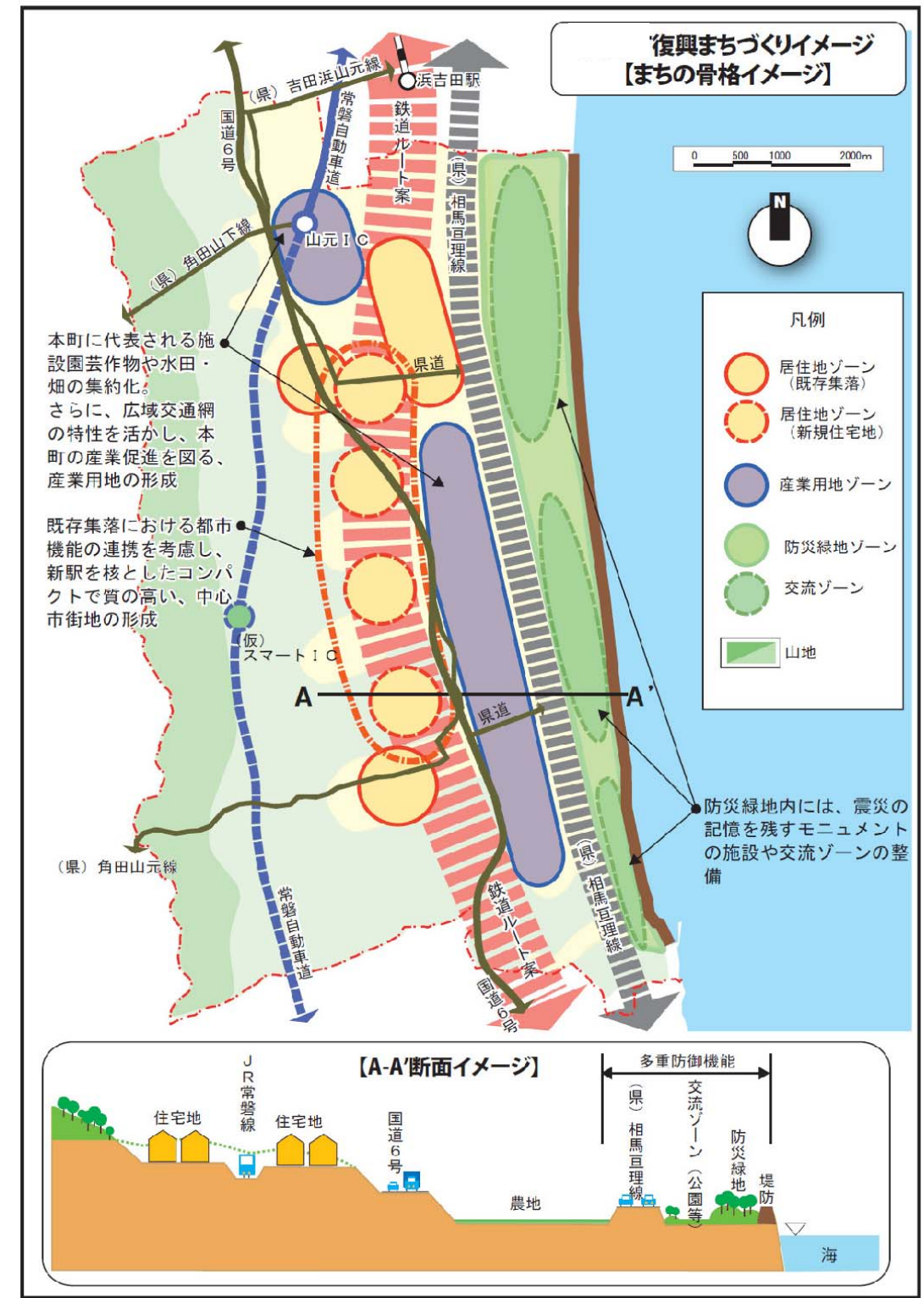
◆A パターン：原位置復旧＋水門



◆B パターン：引堤＋水門

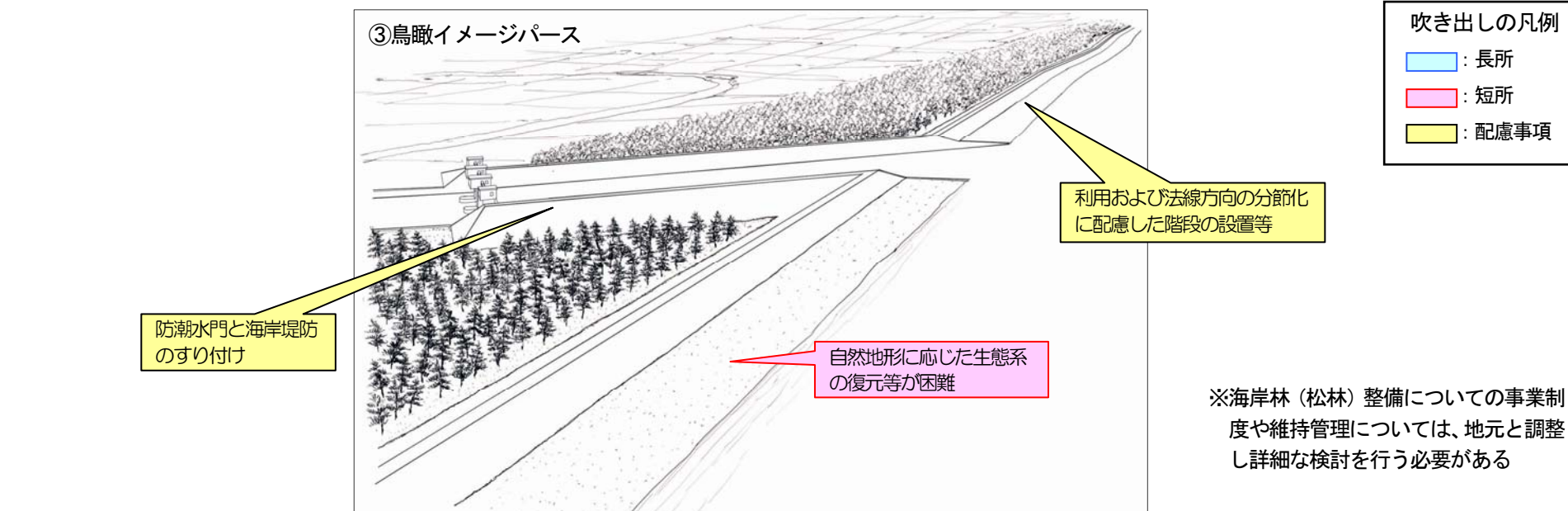
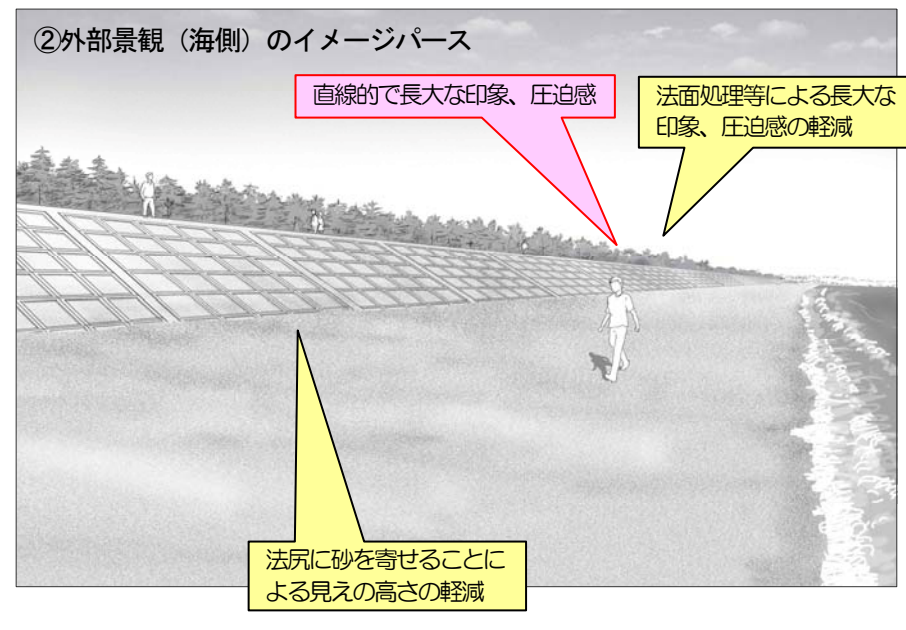
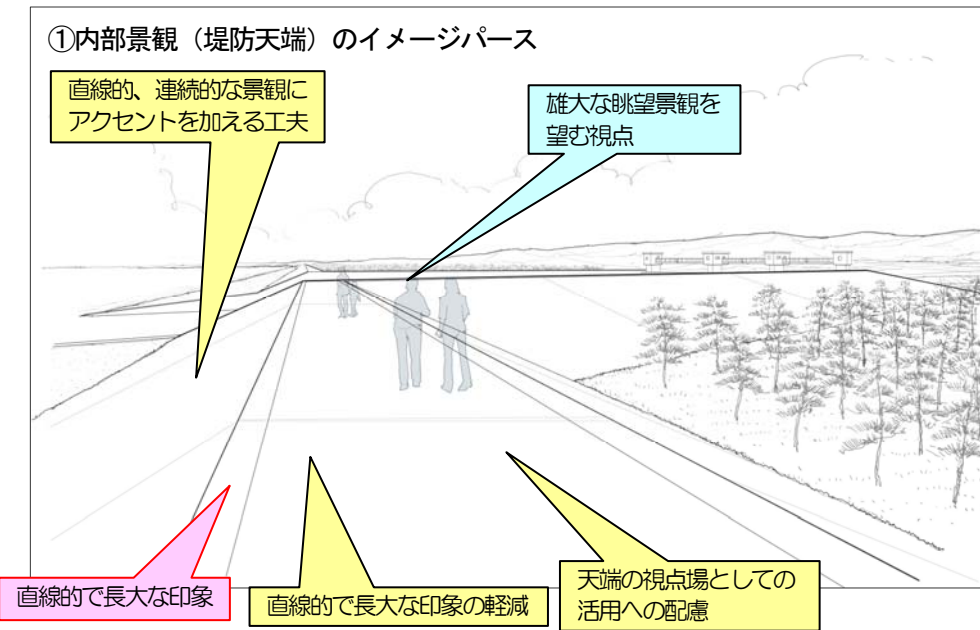
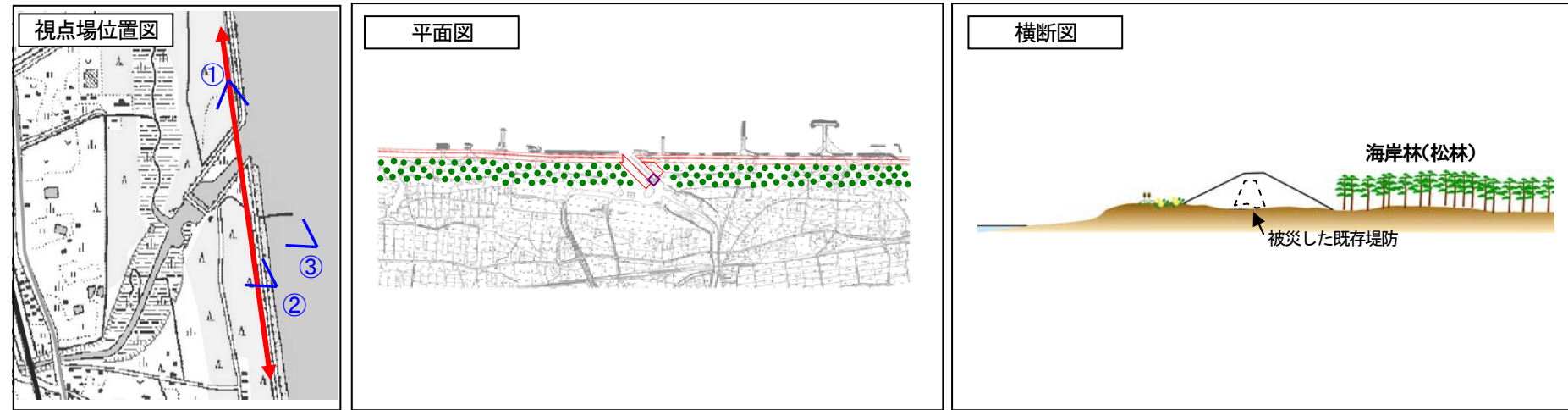


まちづくり計画



出典：復興まちづくりイメージ

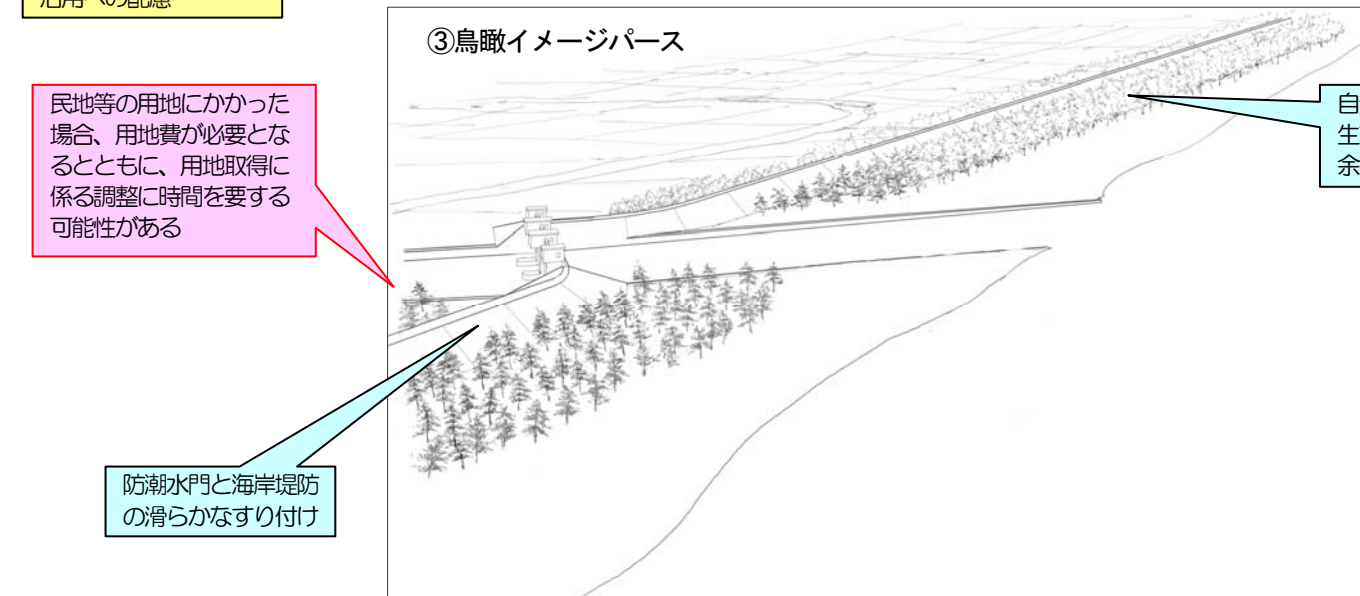
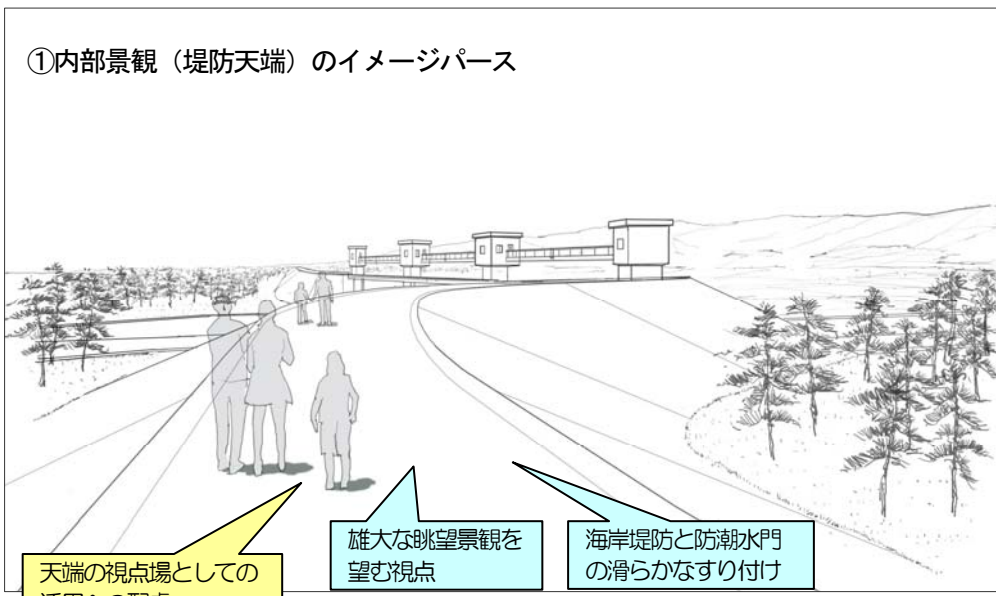
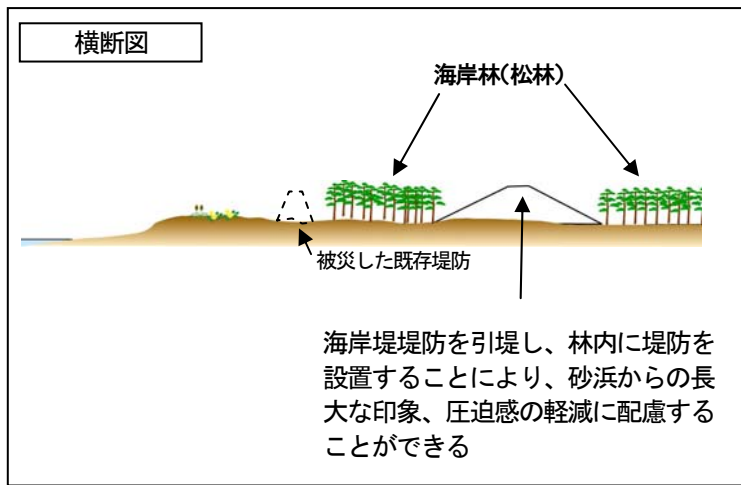
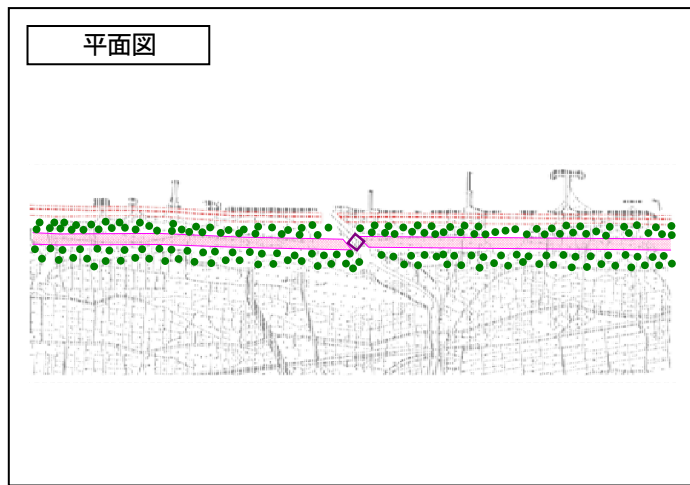
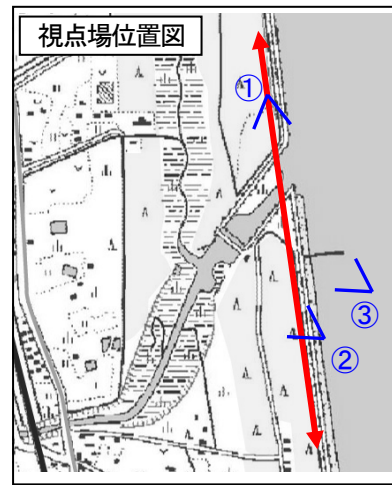
《具体的な景観配慮例》 Aパターン：原位置復旧＋水門



※海岸林（松林）整備についての事業制度や維持管理については、地元と調整し詳細な検討を行う必要がある

	特徴・評価
視覚的景観	<ul style="list-style-type: none"> ・水平方向に長い直線形状により構造体の存在感が強調され、直線的で長大な印象を与える。 ・法線方向へのアクセントの追加、法面処理の工夫等により長大な印象、圧迫感の軽減が不可欠となる。 ・階段などを活用した分節化による景観への配慮が必要となる。
地域性	<ul style="list-style-type: none"> ・連続する雄大な砂浜景観を眺めることのできる眺望視点として、天端の活用への配慮が必要となる。 ・連続する砂浜と海岸線の背後にある海岸林（松林）と点在する干潟や湿地との一体的景観に対して、海岸堤防が分断要素となる。
生態系	<ul style="list-style-type: none"> ・自然地形に応じた本来の生態系の保全・復元への配慮が必要となる。
サステナビリティ	<ul style="list-style-type: none"> ・汀線から堤防までの空間がやや少なく、波浪等による施設への外力が大きいため、施設の維持に労力を要する可能性がある。 ・長期的な海岸保全（海岸侵食対策）については、沿岸漂砂量のバランスの変化（土砂供給の減少等）に留意して、対策を検討する必要がある。
コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・原位置復旧のため、新たな用地費等は発生しないとともに、用地取得に係る調整が不要になる。 ・被災により内陸側への侵食、地盤沈下等が生じているため、地盤の埋め戻し等に費用を要する。 ・残存する既存堤防を仮設構造物として活用することで、工事の施工コストの低減、将来の侵食防止施設としての活用が可能となる。

《具体的な景観配慮例》 Bパターン：引堤+水門



吹き出しの凡例

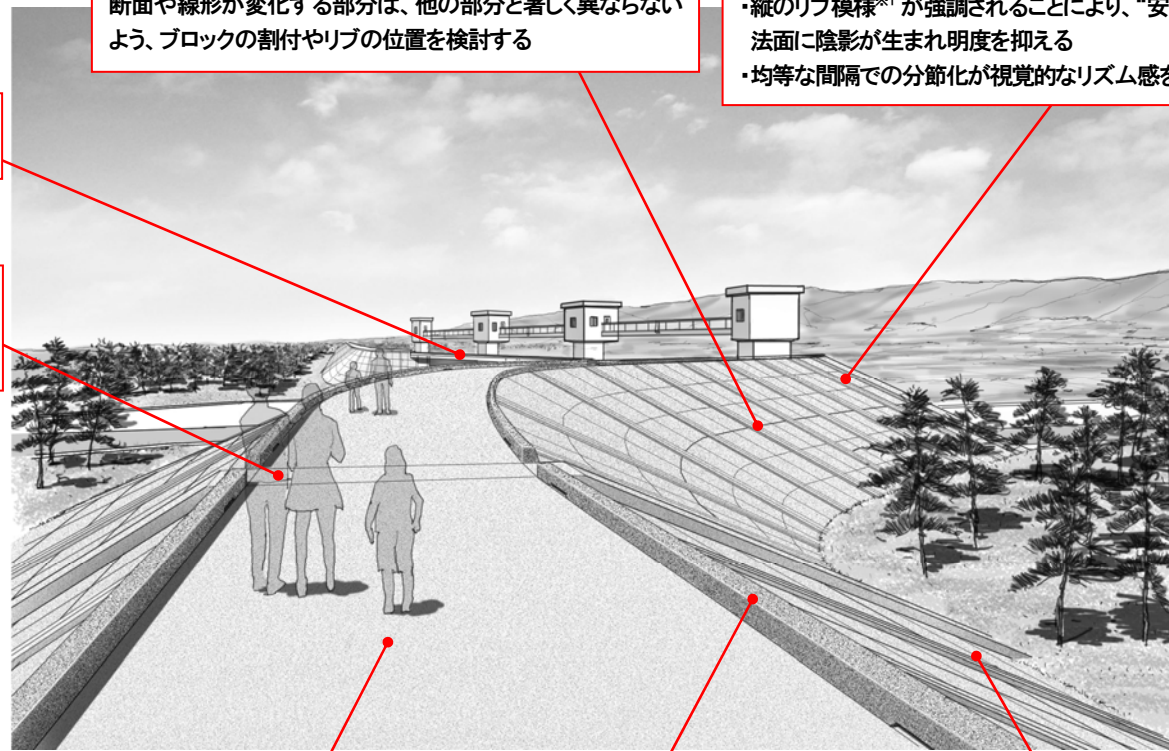
長所	短所	配慮事項
（青）	（赤）	（黄）

※海岸林（松林）の復元・維持については、松が生育可能な環境（地下水位・塩分濃度等）かどうか、外力に対して海岸林が維持可能かどうか等、別途技術的検討が必要である
※海岸林（松林）整備についての事業制度や維持管理については、地元と調整し詳細な検討を行う必要がある

	特徴・評価
視覚的景観	<ul style="list-style-type: none"> ・水平方向に長い直線形状により構造体の存在感が強調され、直線的で長大な印象を与える恐れがあるため、引堤を行うことにより、海岸林（松林）の中に海岸堤防を設置し、視覚的な影響を回避している。
地域性	<ul style="list-style-type: none"> ・連続する雄大な砂浜景観を眺めることのできる眺望視点として、天端の利活用への配慮が必要となる。 ・連続する砂浜と海岸線の背後にある海岸林（松林）と点在する干潟や湿地との一体的景観に対して、海岸堤防が分断要素となりにくい。 ・保安林確保のため、新たに用地確保の必要性が生じ、背後地の利用可能な土地が減少する可能性がある。
生態系	<ul style="list-style-type: none"> ・自然地形に応じた本来の生態系の保全・復元への余地が生まれる。
サステイナビリティ	<ul style="list-style-type: none"> ・汀線から堤防までの空間を確保することで、波浪等による施設への外力の軽減が図られ、施設の維持管理への労力が軽減される。 ・長期的な海岸保全（海岸侵食対策）については、沿岸漂砂量のバランスの変化（土砂供給の減少等）に留意して、対策を検討する必要がある。
コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・引堤により、部分的に民地等の用地がかかることが想定され、用地費が必要となるとともに、用地取得に係る調整に時間を要する可能性がある。 ・被災により内陸側への侵食、地盤沈下等が生じているが、引堤により地盤の埋め戻し等に要する費用を軽減することができる。

《具体的な景観配慮例（細部デザインへの配慮）》 Bパターン：引堤+水門 における景観配慮後のイメージ

①内部景観（堤防天端）のイメージパース



防潮水門は、利用者の動線（通路）の確保に配慮する

法面のリブや階段位置に合わせてテクスチャに変化を入れることで、天端の面にも表情を与える

断面や線形が変化する部分は、他の部分と著しく異ならないよう、ブロックの割付やリブの位置を検討する

・縦のリブ模様^{※1}が強調されることにより、“安定感、支える感覚”を表現できる^{※2}とともに、法面に陰影が生まれ明度を抑える
・均等な間隔での分節化が視覚的なリズム感を生み、長大な印象を軽減する

※1 パースは縦のリブ模様を凸にした場合
※2 “構造物が背後地を防御し、支えている”という本来の機能を伝えることを念頭としたシンプルなデザインの考え方

天端舗装は、石張り等で自然風に見せたり、ペインティングやカラー舗装等の装飾は行ったりせず、維持管理や利用性に配慮してシンプルなコンクリート被覆またはアスファルト舗装とする

縁石や天端コンクリート（法肩部）は、目立つため、洗い出し加工された製品や洗い出し処理を行い、明るさを落とし、柔らかい印象を与える

自然風に見せるための石垣風の表面処理やペインティング等の装飾を行ったりせず、縦のリブ模様によりシンプルに見せる

断面や線形が変化する部分は、他の部分と著しく異ならないよう、ブロックの割付やリブの位置を検討する

②外部景観（海側）のイメージパース



③鳥瞰イメージパース



残存する防潮水門への滑らかなすり付けにより、海岸堤防と残存する防潮水門との一体的な景観が形成される